

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	住宅の水まわり空間の環境設備設計手法に関する小委員会		主 査 名：大塚雅之 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：大塚雅之
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の水まわりの空間を建築的かつ給排水衛生設備面で検討し、快適で、省エネ、省資源に配慮して設計するための設計ガイドラインを作成する。 ・初年度：建築設計と水まわりの課題点を明確にし、各水まわり空間での留意点、設計上必要となる資料を収集する。 ・2年度：初年度成果に基づき、各水まわりの空間での設備計画上の留意点をガイドライン(案)として提示する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：大塚雅之(関東学院大) 幹事：結城 晶博(TOTO) 委員：青木光之(青木計画研究室)、池田茂(BL)、石本雅(東京ガス)、 倉田丈司(LIXIL)、野口修(都市環境研究室)、 宮崎浩一(UR都市機構)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	20,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築計画(ライフステージの変化も考慮)と環境設備計画の関連性の把握 2. 各種環境設備に関する資料の収集
委員会活動の問題点・課題	1. 今後の成果を公開して行くための方法の模索(出版、シンポジウム開催) 2. 建築・設備事例の資料収集(特に写真、実用図面)の検討 3. その他資料(高齢者対応、震災対応、空調・電気設備との関連性)

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D																
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>過去に関連委員会として、住宅水環境性能評価委員会を実施し、水廻り空間の性能評価を建築的側面、環境設備的側面から評価する方法を提案して、実践してきた。その背景のもと、今回は視点を水廻り空間の計画設計に置き、先ずは新築、リフォームを含めて、水廻り空間と給排水設備との取り扱いについて検討した。その上で、水廻り空間に組み込む給水設備、給湯設備、排水設備、衛生器具設備などの主要な設備の計画設計に資するデータを総合的に収集できたことは、初段階として十分に評価できると考える。今後の関連した新規委員会の立ち上げに向けて基礎的な検討が終了したものとする。</p> <p>2011年度：建築設計と水まわりの課題点を明確にし、各水まわり空間での留意点、設計上必要となる資料を収集した。 委員会開催 7回</p> <p>※2012 年度委員会開催状況</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 8 回 (4 月 16 日)</td> <td>今後のまとめ方について検討・整理</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 (5 月 28 日)</td> <td>ライフステージと水まわりについて、委員外の方を招き意見交換</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 (7 月 2 日)</td> <td>ライフステージと水まわり設備の関連について検討・整理</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 (8 月 7 日)</td> <td>給排水等の設備と空間との関連について表を作成し検討・整理</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 (10 月 1 日)</td> <td>表の再整理と空間別代表プランとの関連性検討</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 (11 月 12 日)</td> <td>代表プランの立案と表の再検討</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 (1 月 29 日)</td> <td>建築と設備の取合いに関する事例収集の検討</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 (3 月 19 日)</td> <td>電気設備について知見の収集</td> </tr> </table>				第 8 回 (4 月 16 日)	今後のまとめ方について検討・整理	第 9 回 (5 月 28 日)	ライフステージと水まわりについて、委員外の方を招き意見交換	第 10 回 (7 月 2 日)	ライフステージと水まわり設備の関連について検討・整理	第 11 回 (8 月 7 日)	給排水等の設備と空間との関連について表を作成し検討・整理	第 12 回 (10 月 1 日)	表の再整理と空間別代表プランとの関連性検討	第 13 回 (11 月 12 日)	代表プランの立案と表の再検討	第 14 回 (1 月 29 日)	建築と設備の取合いに関する事例収集の検討	第 15 回 (3 月 19 日)	電気設備について知見の収集
第 8 回 (4 月 16 日)	今後のまとめ方について検討・整理																			
第 9 回 (5 月 28 日)	ライフステージと水まわりについて、委員外の方を招き意見交換																			
第 10 回 (7 月 2 日)	ライフステージと水まわり設備の関連について検討・整理																			
第 11 回 (8 月 7 日)	給排水等の設備と空間との関連について表を作成し検討・整理																			
第 12 回 (10 月 1 日)	表の再整理と空間別代表プランとの関連性検討																			
第 13 回 (11 月 12 日)	代表プランの立案と表の再検討																			
第 14 回 (1 月 29 日)	建築と設備の取合いに関する事例収集の検討																			
第 15 回 (3 月 19 日)	電気設備について知見の収集																			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。